

## “鶏にやさしいワクチン”の研究開発に貢献しています。

### 日本バイオリジカルズ株式会社

日本バイオリジカルズ株式会社（略称：NBI）は、創立15年を向える比較的新しい“鶏用ワクチン”の会社です。一貫して“鶏にやさしいワクチン”を提供するという企業理念のもとに、“生”ワクチンを中心とした製品開発に注力してきました。

その考えに基づいて、NBIは、12年前に日本で初めて“細菌性生ワクチン”である「Mg 生ワクチン（NBI）」を上市しました。不活化ワクチンしかなかった鶏の細菌性の病気に対して、接種ストレスをできるだけ与えない生ワクチンでの予防ができるようになりました。日本の養鶏産業のお役に立つことができたと自負しております。また、2つ目の細菌の生ワクチンとして待ち望まれていた「MS 生ワクチン（NBI）」も、昨年より上市致しました。

これら2つの細菌性生ワクチンが揃ったことにより、レイヤー及びブロイラーの種鶏場においては、Mg および Ms に対する無薬飼育管理がほぼ可能になったと言えます。種鶏に対して、これらの生ワクチンを有効に活用していただくことにより、Mg および Ms の野外感染から種鶏を守り生産されるコマーシャルヒナへの Mg および Ms 垂直感染を防ぐことができます。これらの優れた特性を持った細菌性生ワクチンによって健康なヒナを養鶏場に供給することが可能となるでしょう。また、コマーシャル採卵鶏に対しても、これらの細菌性の生ワクチンの不活化ワクチンにはない優れた効果が、生産性の改善に大きく貢献するものと期待しています。

生ワクチンは粘膜免疫を誘導するタイプのワクチンです。不活化ワクチンにない優れた免疫能を持っています。最近の免疫学の研究では、粘膜免疫は細胞性免疫を形成し、病原体の侵入部位で感染を阻止し、且つ液性免疫をも誘導することが解明されています。即ち“鶏に優しい”だけでなく“ダブルプロテクション（細胞性免疫 + 液性免疫）効果があるということです。

NBI は、鶏用生ワクチンのリーディングカンパニーを目指していますが、Mg および Ms 生ワクチンやその他のウィルス性疾病に対する各種鶏用生ワクチン、検査用エリーザキット等の販売だけでなく、さらには、家畜の新たな疾病に対する生ワクチンの研究開発と共に、畜産全般に関連する技術支援プログラムも実施しております。

この技術支援プログラムでは、NBI テクニカルシンポジウムおよび NBI 国際シンポジウム、NBI 技術会議（技術コンサルティング）などを開催していますが、

2001年4月に開催した第1回NBIテクニカルシンポジウムでは、「人畜共通感染症の対策」をテーマとしてBSE問題を取り上げました。日本で始めてBSEが発生したのは、それから半年経ってからのことでした。また、海外で流行し始めていた鶏インフルエンザの発生を、日本国内では未然に防がなければならないという使命感から、2002年5月には「トリ・インフルエンザの脅威」と題して、第2回NBIテクニカルシンポジウムを開催しましたが、その1年8ヶ月後には、日本で79年ぶりとなるHPAIが残念ながら発生してしまったという経緯があります。

2003年5月開催の第3回NBIテクニカルシンポジウムでは、環境三法の完全施行にあたって、畜産業界の緊急かつ最重要課題の一つである「畜糞のマネージメントを考える」と題して、畜糞処理問題を取り上げました。NBIとしては初めてワクチンや疾病以外のテーマでしたが、畜種や国境を超えて東南アジアとの協力関係にまで及ぶ広い議論が行われました。

これら国内のテクニカルシンポジウムに加えて、NBI国際シンポジウムもハワイとオーストラリアで過去に3回開催しており1999年11月には「食中毒に関連するワクチンの開発」、2000年11月には「新世代におけるポートリービジネスの構築」、2002年10月には「国産の意義」をテーマにしたシンポジウムを海外で開催し、好評を得てきました。これらのシンポジウムの内容は、全て小冊子に纏められて配布されましたし、NBIのホームページ (<http://www.nbi.ne.jp>)でも閲覧できるよう公開されています。

これらのシンポジウムとは別に、各種の研究会や小規模の勉強会も開催して、タイムリーな話題について情報提供を適宜行っております。全国の生産現場に直接従事しておられる獣医の方々を対象に、国内の著名な研究者を講師に招いて、「粘膜免疫」について勉強会を行ったのもその一例です。

ここ暫くは、世界各地で毎年のように繰り返し発生しているAI問題のために、養鶏関係者が一同に会した技術シンポジウムや研究会の開催が難しい状況になってきたことから、NBIとしては、国内外でのシンポジウムの開催を見合わせてきておりますが、一方で、支援プログラムの中に「NBI技術委員会」と称する技術コンサルタントチームを設け、主にレイヤーおよびブロイラー関連の方々を対象に、直面する技術的な諸問題を個別に協議すべく「NBI技術会議」というコンサルティングシステムを作りました。

レイヤー業界もブロイラー業界も、養鶏産業は次第に大規模化、自動化の方向に進んできている中で、種鶏場や養鶏場も他産業と同様に、団塊世代が定年を迎える時期の、いわゆる“2007年問題”に直面しており、今までに蓄積してきた熟練した養鶏技術やそれぞれの独自のノウハウをうまく次代に継承できるかどうかという状況を抱えています。

そのために、NBI 技術委員会は、鶏種の問題、栄養と飼料、鶏病や環境などの飼育管理全般にわたる具体的な諸問題について、テーマごとにお互いが議論しながら、より良い方向を模索していこうという勉強会を毎月開催し、また国内外の最新情報の分析や文献の翻訳、「NBI テクニカルニュース」の発行によってそれら技術情報の発信などを行っています。「NBI テクニカルニュース」についても、常に NBI のホームページ上に公開されています。

NBI 技術会議の開催は、種鶏場や養鶏場との個別の勉強会を含め、2006 年末までにすでに 26 回を数えるほどになりました。

NBI の今後の新たな展開としては、新たな技術開発に経営資源をより集中し、大学や他の関連メーカーとの協力、連携により、グローバルに通用する“日本発”の優良な新技術を開発し、日本だけでなく海外の養鶏業や畜産業界にも微力ながら貢献できるよう努力していく所存です。その中には、グローバルに通用する国産の生ワクチンだけでなく、第三世代の新しいワクチンの開発、日本で開発された新しい発想による飼料添加物などが含まれています。

NBI は、常にベンチャー精神を礎に、これまでどおり少数の社員だけで、よりスピーディな判断と行動、徹底した効率を追及しながら、国内外の提携会社や大学との密接な連携と協力により、業界のリーディングカンパニーとして、市場の多様なニーズに応えられるよう、高レベルの製品とそれに付随する技術サポートを併せて提供し続けていきます。

今後とも、更なる関係各位のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

## 鶏にやさしい NBIの生ワクチン

